

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のサービス提供の中で、職員全体が理念に基づいてのケアを行っていると共に、理念に対する理解をしている。	理念や身体拘束、接遇等について、日頃から職員同士で話し合い、明るく前向きに実践している。	事業主が理念をさらに深く語り、職員と意思統一を堅固にできる環境にしていただきたい。特に、新しく採用された方がいるときほど、そのような場を設けていただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域婦人会行事に参加して地域住民の方々との交流に取り組んでいる。地域住民として、近隣の店舗や喫茶店などに出かけている。	運営推進会議や地域婦人会行事等を通じて、地域の人達と触れ合い、親交を深めている。	もっと地元の公共機関(消防署・交番等)と交流することで、身近な情報(事件・事故等)収集に繋がったり、日常的な手助けや支援に繋がると思っています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、地域代表として参加していただき、認知症への理解や支援方法等を話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議を開き、利用者のご家族の方、地域代表の方、行政の方等を迎え、サービスへの取り組みや報告等を行っている。	運営推進会議は、地域住民や行政の方を招いて2ヶ月に一回行っている。ホーム内での勉強会やスタッフ会議等にも反映しようと試みている。	実際の状況下で運営会議を開催してその間近の現場の中で見聞きし、意見をストレートに聞く耳を持って対応すればさらに改善がスムーズに図れるのではないだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センターの方が参加される、福祉事務所、福祉センターの協力を得てケアサービスの取り組みを行っている。	市町村との直接の連携は少ないようである。相談窓口はピアーズ本部であり、経由して市町村の担当者と連携を図っている。	市町村の担当者と身近なことから気楽に電話からでも接点を気づいていただきたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員による、「身体拘束ゼロへの取り組み」をもとに、月1回ミーティングを開き現状の見直しを行うと共に、職員に徹底理解を図っている。	身体拘束委員会を設置し、日頃から身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	実際に職員も身体拘束をしてみても、利用者の身になって考えていただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開き、高齢者虐待防止に取り組んでいる。特に心理的虐待の理解については、職員全体で常に話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度等のファイルを定め、いつでも活用できる体制としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族等に理解して頂くまで十分な説明を行い、特に医療連携や利用料、重度化に関しては細やかに説明し、納得していただいた上で、契約書を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で、ご家族からの意見を聞き、運営に反映している。意見苦情箱を設け、遠慮のない意見が聞ける様にしている。	玄関先に意見苦情箱を設置しているが、利用者数は少ないようである。しかし、運営推進会議に参加している家族からの意見や要望は多く、管理者等は運営に反映させ、日常生活の中に取り込めるように努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、リーダー主任会議で意見の交換を行い、個々の意見、要望を活かしているような体制を作っています。	月一回、ユニット会議やリーダー主任会議を通して職員の意見や要望等を聞いている。新入社員からはアットホーム的な環境の中で、ざっくばらんな会話を通じて聞き出すようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間を把握し、勤務表の作成を行い、健康診断の実施で心身の健康を保っている。あらゆる資格取得の支度をし、取得後は資格が活かされる様な体制作りになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講習会には、多くの職員が参加できる様に計画しています。研修後はユニット会議の中で、職員全体と勉強会を行います。新人職員には新人研修として、マンツーマンで指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員、認知症ケア専門員等の研修で他施設との意見の交流が持っている。また、持ち帰りケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に当たっては、事前面接で生活状態を把握し、本人の希望や不安を理解する様に努めている。2週間の暫定介護計画を作成し、安心して生活が出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の想いや要望等を理解し、それについての対応を事前に話し合い、ご家族と共に共有して行く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性があるかどうかの判断、見極めを相談の中で考慮し、信頼関係を築きながらサービスを提供できる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方は、人生の先輩であり、色々と教えて頂くことも多い。入居者の方々の声に耳を傾け、生活の中で活かし、共に支え合う関係を作るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時に、日々の状態を伝えたり、写真や手紙で生活の様子をご家族の方にお知らせしたりしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親族、知人の方々が絶えず訪問、面会に来て頂ける様な雰囲気作りをしている。地域の馴染みの場所へ出掛ける機会を設けている。	元施設の行事を通じて、知人の所へ会いに行ったり、家族や親族の方々が来訪した時、近況や状態等を説明したりして、関係継続作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方で出来る事は、分け合い協力し合い支え合っている。職員も共に会話の中に入り、関係がうまくいくよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設等へ移られる場合、今までの生活、ケアが継続できるように情報提供で報告している。家族にはその後の様子を電話や手紙でお尋ねしています。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、多くの会話を大切にしたい、思いや希望を見出しています。把握の困難な場合、本人になり替わり、どう生活したいか皆で話合っています。又、家族の想いも尋ねます。	職員は会話を重視し、入居者から日常生活での要望や希望等を汲み取るようにしている。また、家族との会話を通じて、把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味、好物、生活歴を知ることで、穏やかに暮らしていける様、介護計画に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを大事にして、その人らしく生活していける様、想いを大切に、把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の方に想いや意見を聞き、ユニット会議にてカンファレンス、モニタリングを行い、ご本人意向に合った介護計画を作成している。	半年に一回、介護計画を見直している。また、カンファレンス等で話し合われた内容等を家族にも伝え、要望等を聞き入れながら作成している。モニタリングによるチェックも必ず行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の会議記録に、介護計画の実践や身体的状況、日々の暮らしの様子を記録している。勤務開始前には個々の申し送りで確認、把握が出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や、身体的必要性に応じて。可能な事柄は取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事には地域のボランティアの方が来て下さり、交流を深めている。又、運営推進会議に地域包括センターの職員や町内会の方が参加され、地域の情報交換に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事務所の協力医の他、かかりつけ医による医療も受けられ、適切な医療が受けられるようにしている。	かかりつけ医においては、家族が対応している。また、施設が提携している医療機関には受診を通して密な関係を保ち、家族が安心できる受診支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、健康管理や状態の変化に応じた支援を行っている。個々の記録を基に、看護師がいない場合も適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関やご家族と、回復状態等情報交換を行い、お見舞い等でご本人を気づけ速やかな退院になるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書、同意書を本人や家族の意向を基に話し合い作成する。医師、看護師、家族、介護者など、条件が整えば緩和ケアを行っている。	入居契約時、家族や入居者本人を交えて話し合い、看取り等の方針を決めている。これからの議題でもあり、ユニット会議にて勉強会を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の介護ケアの中で、状態変化時の対応を習得しています。協力医への速い対応で指示をもらい、緊急対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間の火災を想定して、年2回は入居者の方と共に避難訓練を行っている。地域の方々には、町内会や運営推進会議で協力をお願いしている。	年2回、避難訓練を実施している。今年の3月には夜間を想定した避難訓練を実施。運営推進会議の中で、地元消防団の方々に参加してもらえるように声掛けを行う予定。	毎月行う勉強会の中で、災害対策(消火器やAED等の使用方法など)に関する事も取り入れ、日々の申し送りに職員一人ひとりの割り当て分担を確認することが出来ると、さらに良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し掛け、言葉がけでプライバシーを守ると共に、尊厳、敬意を忘れず、本人の性格等理解し、気持ちを大切にされたケアを心がけ援助する様努めている。	入居者の立場や状況をしっかりと見極め、一人ひとりに合った介護支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ、2個ぐらいの選択肢を提案し、本人が選びやすい会話の中で、気持ちを大事にしながら希望を叶えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態に合わせ、本人の希望を聞きながら、個性を活かせるような、支援を心がけている。特に体調に配慮しながらの個別性のある日々を送ってもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問散髪やメイクの日を設け、清潔を保ち、おしゃれを楽しんでもらえるよう計画している。服装もその人らしいスタイルでその人らしさが保てる様に生活している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	最近では、おひなケーキ、お彼岸のおはぎを作りました。季節を感じてもらえる様工夫しています。個々の対応としては、食事量、好き嫌い等を把握して介護計画にも取り入れています。	目や匂いで食事を楽しめるように、季節の野菜等を取り入れている。また、入居者の方々と一緒に会話をしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取量を把握し、栄養バランスを確認している。現在医師の指示の下、高カロリー補助食品を食事量に合わせて摂取している方もいる。水分の摂取量を把握する必要がある方もおり、日々記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行い、清潔に保てる様実行しているが、ガーゼ等での口腔ケアが必要な方には、誤嚥性肺炎とならぬ様、十分配慮している。訪問歯科による口腔ケアも取り入れ、口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄の時間を設けると共に、排泄間隔を把握し、トイレ誘導や声かけを行い、トイレで排泄が行える様支援している。	職員は各入居者の排泄時間等を把握し、一人ひとりに合った自立に向けてのサポートを軸に、トイレ誘導や処理を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便記録を見ながら、十分な水分摂取を行ったり、牛乳やヨーグルト等を摂取してもらう。又、本人が無理のない程度の運動や散歩で身体を動かしてもらう。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの生活習慣や、気分に合わせて、無理をせず本人のペースに合わせて声掛けをし、ゆったりと入浴をして頂く様支援する。	2日に1回の入浴を基本としている。また、職員はその日の入居者の気分や状態に合わせて、声掛けしながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、皆さんとの活動に参加してもらい、夜間はゆっくり眠れる様な生活リズムを作る。無理に眠るのではなく、安心して眠りにつける様、温かいミルクを飲んでもらったり、会話を楽しんでもらうなど配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方ファイルにより、職員全員が個人個人の内服薬を確認出来る様にしている。内服時には、きちんと飲み込みが出来るか、必ず確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、趣味が活かせ、楽しみが持てる様、個々に合った生きがいが見つけられる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は外気浴を行っている。近隣の喫茶店に行き、ケーキセットを頂くのがとても気分転換になっている。	職員の中で外出係を決め、近くの喫茶店やスーパー、入居者の希望する場所等へ買い物やドライブに出かけている。また、家族の方と一緒に外出する入居者の方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の希望やご本人の希望で、財布を所持してもらっている。外出時などに使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月家族に宛てた手紙を、短くとも本人に書いて頂いている。写真を添えるなどして生活の様子を伝えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの飾り付けで、季節感を感じられる様に工夫しています。入居者の方の手作りを基本としていますが、職員も参加していません。ホール全体が明るく、居心地の良い場所であるように配慮している。	毎日、窓を開放し四季を感じる風を取り入れ、自然と同調しながら、季節を感じ取れる手作りの品々をホールに取り入れて、入居者も居心地良く、職員も仕事しやすいような環境づくりを心掛けている。また、天窓から注ぐ太陽の日差しにも配慮しながら、机の配置に気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファーを利用してもらったり、テーブルや椅子の配置に考慮して、落ち着いて気の合う人達が楽しめる様に工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者の思い出の写真や、手作り品を飾り、馴染みの物などで安らぎや、温かさを感じてもらえる様、取り組んでいる。	各居室は入居者の使い慣れた物で固められ、中には応接セットさながらの机や椅子が配置された部屋もあり、ゆったりと過ごせる各自に合った居室空間となっている。	個人の持ち物ではあるが、点検・修理・廃棄等を施して常に安全に使用できるように配慮していただきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員全員で、一人ひとりの「できる事」を見つけ出し、介護計画に取り入れながらケアを行っている。状態の変化に応じモニタリングを行い、自立支援に努めている。		